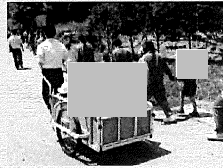


成果と課題

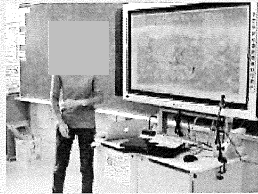
■成果

- ① 教員研修の実施
慶應義塾大学 SFC 研究所准教授 先生の授業を参観することにより、今後の防災教育のあり方について学ぶことが出来た。子どもが地震に対して、身を守ることの理論的研修を行い、それに沿った実践をすることで、より子どもが主体的に判断する避難訓練を行うことが出来た。
- ② 緊急地震速報システムの導入
これまでの地震の揺れに対する取り組みは、教師の指示を待ちそれに従うことに重点を置いた取り組みだったが、今回の取り組みをとおし、揺れに対して子ども自身が緊急地震速報システムの警報音によって備えたり、自分の今いる状況を判断しながらより安全な避難場所を確保したりする意識を高めることができた。
- ③ 関係機関と連携した取り組みを行う
学校だけではなく、地域の関係機関と協力して事業を行うことで、より実践的な避難訓練を行うことが出来た。学校の考え方や訓練のあり方を共通理解していただくことが出来た。また関係機関からご意見をいただくことで、これまで以上に実践的な訓練を実施することが出来た。



■課題

- ① 防災について「知っている」から「身につけている」へつなげるための継続的な取り組みを検討していく必要がある。発達段階への配慮や年間計画の作成が課題である。
ア 発達段階において、どのように訓練に臨む意識を持たせるか。
(より真剣に、自分で判断した最善の行動)
イ 地震や津波などの災害についての知識理解と訓練をどのようにつないでいくか。
(地震・津波についての学習、ダンゴムシの姿勢)
- ② 揺れや警報音に対して過剰に反応したり震災のフラッシュバックを起こしたりする児童生徒への対応は引き続き大きな課題であり、身につけたい力の指導と子どもたちへの丁寧なサポートのあり方を今後も検討していく。特に校外での訓練への対応を検討する必要がある。
- ③ 本年度の取り組みを生かし、他の災害に対しても主体的に判断しながら命を守る防災教育のあり方を検討していく必要がある。



連絡先:大槌町教育委員会 TEL 0193-42-6100 FAX 0193-42-2400
監修:慶應義塾大学SFC研究所 佳教授

平成25年度 大槌町防災教育リーフレット

～実践的総合防災事業を活用して～



平成26年2月

岩手県大槌町教育委員会

はじめに

■大槌町の現状と課題

震災により壊滅的な被害を受けた大槌町は多くの支援によって小4校、中1校(H25年度より小4校は1校に統合)が同敷地内の仮設校舎で教育活動を再開することができました。しかし、現在も震災による影響から、余震による「フラッシュバック」や「生活ストレス」などの問題が表面化してきています。このことは校舎被災を免れた小1校、中1校でも同様です。こういった状況の中、自分の命を守るために災害に向き合い、防災に主体的にかかわるための教育活動をどのように推進していくのが本町の重要な課題であると考えます。

■本事業のねらい

- (1) この町をつくりこの町の担い手となる子どもたちに、正しい災害への知識・理解を深めさせながら、状況を的確に判断し主体的に行動する態度を身につけさせる。
- (2) 緊急地震速報システムを活用することにより、地震に対して予測をもとに落ち着いて行動し、より状況に適した行動ができる子どもを育成する。
- (3) (1)(2)の取り組みを広く発信していく。

■実践委員会の開催

○授業公開

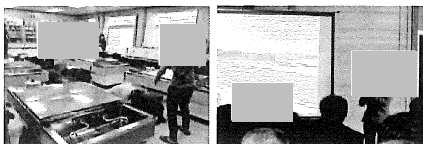
実践的総合防災支援事業を円滑に推進するため、町内外の方々との実践委員会を2回開催しました。

・出席者一覧

1	慶應義塾大学SFC研究所
2	釜石市教育委員会
3	盛岡地方気象台
4	学校教育室
5	岩手県教育委員会
6	大槌町社会福祉協議会
7	大槌消防署
8	大槌町役場・危機管理室
9	大槌町役場・総合政策課
10	大槌地区PTA
11	吉里吉里地区PTA
12	大槌高等学校
13	大槌小学校
14	吉里吉里小学校
15	大槌中学校
16	吉里吉里中学校

1、授業公開

■専門家を招き、教員向けの授業公開と講演会を大槌小学校で実施しました。



○授業公開

授業者：慶應義塾大学SFC研究所 准教授 先生
実施クラス：大槌小学校6年3組

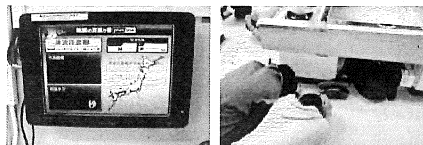
○講演会

講義タイトル：「主体的に判断する防災教育のあり方」

地震に対する知識や防災についての考え方、そして命を守るための第一次避難のあり方を授業いただきました。「ダング虫のポーズ」の実演を交えたお話を児童は真剣に聞いていました。町内の全教員を対象に行いました。

2、緊急地震速報システムの導入

■町内のすべての小中学校に緊急地震速報システムを導入しました。



(1) 緊急地震速報システムを導入したことにより、児童生徒に地震によるゆれに対し、情報もとに、主体的に判断をすることを促せるようになりました。

(2) 学校生活内の様々な場面に応じた第1次避難についても訓練を行うことができるようになりました。

緊急地震速報システムとは？

- ①電源が直下ではない場合、地震による大きなゆれがくる前に、設置場所の予測震度とゆれの到達までの時間を画面と音声でお知らせできます。
 - ②ゆれが来る前に情報を受け取れた場合、より安全な場所へ身を寄せる行動準備ができます。
 - ③訓練に活用することで、より良い行動準備が、より短い時間でできるようになります。
- ※震源が直下やごく近くの場合、緊急地震速報の発表前にゆれが来てしまうことがあります。

3、様々な場面での避難訓練を実施

① 大槌小中学校で合同で避難訓練が実施されました。

同一敷地内の仮設校舎で生活している小中学生が合同での避難訓練を実施しました。避難訓練当日は、中学生が小学生の手を引き避難をしました。合同避難訓練では、地震・津波を想定した避難訓練を実施しました。



② 下校時間を想定した大槌小学校での避難訓練

スクールバスの運転手、保安員、小学校と隣接する児童館や子どもセンターの皆さんと連携して避難訓練を実施しました。下校時間に避難する時に気をつけられないことなどを話し合い実践しました。



③ 防災行政無線を使い登校時の吉里吉里地区での小中学校地域での避難訓練の実施

朝の登校時に大きな地震と津波警報が発令された時を想定して、避難訓練を実施しました。児童、生徒だけでなく地域の方々にもご参加いただきました。



④ 緊急地震速報システムを活用した大槌学校での避難訓練の実施

昼休み時間に緊急地震速報システムを活用した避難訓練を実施しました。児童は警報音を聞いて自分で判断し行動することができました。



来年度に向けて

- ① 各学校での避難訓練の実施にあたり、スクールカウンセラーから助言をいただきながら進めた。今後も学校外での活動に対し心のケアの関わり方の検討が必要である。
- ② 学校外での避難訓練は地域住民や行政との関わりが重要であり、調整役となるコーディネーターが必要である。
- ③ 緊急地震速報を活用した避難訓練は、主体的に判断して行動する防災教育に有効であった。発達段階に応じた取り組みや年間計画の中への位置づけを今後も検討していく。

4、学校以外の地域の方たちとの意見交換

■避難訓練の実施にあたり、学校関係者だけでなく、地域を支える方たちと打ち合わせを行いました。

・出席者一覧

1	大槌町役場・総務課危機管理室
2	大槌町役場・保健福祉課
3	大槌町教育委員会・指導主事・SB担当
4	SB運行会社(2業者)
5	大槌町消防署
6	消防団
7	児童館
8	子どもセンター
9	大槌小学校PTA会長
10	大槌中学校
11	大槌町学校支援コーディネーター
12	保安員

事前打ち合わせ会議での意見・質問

- ・児童の登下校時のつきそいをしている保安員は警報発令後にどんな動きをとるべきか
- ・スクールバスの運転手がとるべき行動について
- ・小学校、児童館、子どもセンターがどのように連携しながら避難すべきか

今後の訓練に、話し合われた内容を盛り込みながら検証を重ねていきます。

いのちを守る3つのポイント！

倒れてこない

落ちてこない

移動してこない



この授業のポイント

- 過去の地震の映像から、子どもたちが自ら、「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所が大事だと気付く。
- 写真を使って、落ちてきそうなもの・倒れてきそうなもの・移動してきそうなものを探す練習をする。
- 写真は、授業を受ける子どもたちが写っているものを使う。つまり、授業をする先生が、自分のクラスの写真を撮って、それを使って危険なもの探しをする。
 - 最初一枚目はどこか知らない学校の写真にして、2枚目からクラスの写真にすると盛り上がる。